

令和4年目標達成計画

作成日: 令和4年3月25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	47	○服薬支援 ・これまで内服忘れや間違いなど誤薬事故を繰り返し、チェック体制を増やしても改善しない現状がある。 ・薬局より分包、セットされたものが届くため、なぜ処方されているかの根拠(病状との繋がり)や内容の理解が不足している。 ・特に変更があった場合や臨時処方時の申し送りが曖昧で事故に繋がるケースがあった。	①全職員が処方されている薬の内容(目的、用法、用量、副作用)が把握できる。 ②本人の状態の経過や、状態の変化に関する日々の記録が正しく行え、医療関係者に正しく伝えられる。 ③誤薬が防げる。	①日々の健康状態を正確に記録し、把握していく。 ②処方時は、その根拠と用法を医師より正しく聴き取る ③居宅療養管理指導の際に薬剤師へ副作用や注意点などを確認する。 ④処方の変更や臨時処方時は、内服後の経過や状態を医療に報告する ⑤上記①～④について、正しく記録を残す ⑥薬の準備や内服介助は、内服袋を確認したうえで丁寧に行い、内服前後の確認を毎回必ず別の職員で行う。 ⑦ヒヤリハットを活用し、リスクのある場面を確認していき、未然防止に繋げる。	12ヶ月  (目標③は3か月を目指す)
2	40	○食事を楽しむことのできる支援 ・個々の状態に合わせた食事形態で提供することはできているが、本人の嗜好にあわせた柔軟な対応が不足している。 ・本人のできる力を発揮する機会がなかなか持たず、準備から調理、片付けに至るまで、その流れは職員主体に傾いている。	①本人の食べやすい形態で提供される ②本人の好まない食材や食べにくい形状のものは、その都度、変更や調整できる。 ③自分の好きなものを選んで飲食できる機会が日常的に持てる ④準備や調理、片付けなど、利用者の力を活かして参加出来る機会が多く持て、職員と一緒にすることで両者の楽しみに繋がる	①個々の食に対しての嗜好を知る。 ②季節行事や誕生日など、希望にそった献立へ変更する。 ③ホーム内でパンのバイキングを毎月実施していく。 ④検食簿に、利用者視点での良い点・工夫点を詳しく残し、その内容を活かす。 ⑤食材や食器の準備、切る、炒める、混ぜる、味見、盛付、配膳下膳、食器洗い、食器拭きなど、その人のできる部分を行えるように声掛けやセッティングをする。 ⑥栄養士との連携で、栄養ケアの視点も忘れないようにする	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。